

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名	江の島保育園		
活動日	2025年 9月5日	9月12日	9月20日
			9月26日
クラス名（年齢）	かりん組（2歳児）		
年間テーマ	感覚		

活動のテーマ「 感触② 」

〈テーマの設定理由〉

自由遊びの中で日常的に水や砂あそび、片栗粉や小麦粉を使用した粘土を行っており、子どもたちは興味を示して取り組んでいる。夏の季節を感じながら感触を確かめ、違いに気付き、さらに興味関心を深めていけるよう設定した。

1. 活動スケジュール

9/5、9/12、9/20、9/26 に活動を実施する。

- ・自由遊びの中で行う。保育士が材料を準備し作り始める。
- ・子どもが作る工程から一緒に参加できるようにし、会話をしながら素材の形状や感触の変化を感じられるようにする。
- ・出来上がったものを一人ずつに分ける。自由に感覚をして様々に試していく中で感触を楽しめるように見守る。必要に応じて扱い方のモデルを示す。
- ・クラス会議の中で子どもの遊びの様子や反応、気付きを大人同士で共有する。
- ・活動内容の成果と評価を写真と共に残す。

2. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材、道具〉

洗濯のり ホウ砂 小麦粉 片栗粉 食紅 水

型抜き バット 粘土型 風船（粉を入れてスクイーズとして使用）

ブルーシート ポウル 洗面器 計量カップ 雑巾

〈環境設定〉

- ・テーブルの上で行う。（片栗粉粘土はブルーシートを敷きテラスで実施する。）
- ・子どもが座る椅子を用意し、個々に十分遊べるよう一人ひとりのスペースを保障する。
- ・十分な量の道具を用意する。

3. 探求活動の実践

<活動の内容>

- 粉と水が混ざり形状が変わっていく様子や、食紅を入れ混ぜると色に変化していく様子などを観察する。
- 出来上がったものを手に取り握る、つまむ、叩く、伸ばす、ちぎる、丸めるなどそれぞれ自由に感覚する。
- 伸ばしたものを型抜きで抜いたり、道具を使って延ばしたり切ったりする。
- 様々なできた形を見立てる。
- 片栗粉粘土は握ると形になるが手を広げると流れだしたり形状の変化を見る、知る。触って不思議さを感じる。
- 手に触れた感触や温度を感じる。
- 手だけでなく足でも感覚する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 粉を触ってもらい「どう？」と尋ねると「さらさらしてる」「手につく」など言葉で伝える。握ったりして形にならないことを感じる。
- 保育士が粉と水、食紅を混ぜる様子を見ている中で「かたまってきた」「パンみたい」「色がちょっと変わってきた」など気付きがあり、見えている状況を各々言葉にする。保育士はそれぞれの発言に共感しながら粘土やスライムづくりを進める。
- 「なんでかたくなるの？」と質問が出る。「不思議だよね」と共感しつつ、水と粉（スライム時は水に溶かしたホウ酸と洗濯のり）を混ぜると固まること（性質があること）を伝える。
- 手の平で叩いて伸ばして型抜きをする。「クッキーみたい」との声が上がり、クッキーも同じ粉を使って作るのだということを話す。匂いを嗅いでみる子どもがいる。
- 型抜きで形を取ったりヘラを包丁のように使い切ったりする。個々によってできることが異なるので道具の扱いについてモデルを示したり一緒にやったりする。回数を重ねることでコツを掴み綺麗に型抜きが出来るようになる。
- スライムは手に取ると「つめたい」「きもちいい」と感覚する。
- 机のふちにスライムを置き、下にゆっくり垂れていく様子をじっと観察する。その後手の平に乗せても同じように垂れていくかを確認する。「のびた」と言葉にする。「長い」「短い」などそれぞれが垂れた長さについても比べてみる。
- 小麦粉粘土とスライムを経験したことのある子どもが片栗粉粘土を手にした際に「ギュッとすると（握ると）粘土になって手を開くと（手から溶けていく様子を見ながら）スライムになるね」と気付きがある。その不思議さに気付き何度も試す。保育士はその気付きに共感しつつ十分に試せるように空間と粘土の量を保障する。

※写真



5. 振り返り

＜振り返りによって得た気づき＞

- ・初めは恐る恐る触れていた子どもも経験を重ねるごとに様々に感覚して試す姿が見られた。それぞれが思い思いの方法で感覚することを楽しんでいた。
- ・スライム、小麦粉粘土、片栗粉粘土の経験があることでそれぞれを比較するような発言をする子どもがいた。経験の積み重ねができたからこそその発言であると感じた。
- ・手で触れ、足で触れ、体の様々な部分で感覚を楽しんだ。それぞれの部分で感じる感覚の違いを味わえたと思う。
- ・実際に子どもの目の前でスライムや粘土を作ること疑問が出てきたり、目に見えていることを言語化して大人へ言葉で伝えようとする姿が多く見られた。感覚のみならず思考する力や言葉も刺激された。
- ・偶然にできた形を何かに見立てたり、偶然できた形を面白がったりする姿が見られ子どもたちの想像力の柔軟さを感じられた。